

3月7日(日)にユーラシアンクラブの特別総会・新春交歓会

シルクロードアカデミーのパイオニア・加藤九祚先生の米寿の挑戦を応援！

特定非営利活動法人 ユーラシアンクラブ
理事長 大野 遼

開催にあたって

新年あけましておめでとうございます。

この数年、「日本人クラブからの脱皮」などを模索してきたユーラシアンクラブは、これまでの議論を踏まえて役員の改選、機構改革、活動計画を報告する特別総会と新春交歓会を開催することになりました。

事務所も「日本橋移転」の予定です。

アジアとのつながり～心のシルクロード

中国やインドを初めアジア全体の経済的伸張を視野に「東アジア共同体」などの功利主義的アジアビジョンが喧伝されるほどにはアジアへの理解も戦略的ビジョンも示せない日本。ディズニースタイルやオランダ村はあっても「アジア・シルクロード文化村」のない日本。幕末明治以来染み付いた「脱亜入欧」を払拭し、日本と日本人が心のシルクロードで真にアジアとつながっていかなければならない時期がやってきました。

地域拠点型活動に参加

私はこの数年、「シルクロードは音楽回廊・三味線や江戸歌舞伎誕生にはアジアの音楽史が潜んでいる」、「シルクロードは女神の回廊・水と川を大切に思う観音・弁才天信仰でアジアとつながっている」と、音楽や太陽と水をキーワードに地域からアジア・シルクロードとつながる提案を行い活動してきましたが、このほど時空を越えたシルクロードの終着駅と私が提案する日本橋へユーラシアンクラブの本部を移転し、またアフガニスタン、中央アジアから古代東国の玄関「相模国」＝神奈川県を結ぶ女神の回廊が潜む愛川町に「愛川町シルクロードのまちづくり実行委員会」（仮称）が発足したことを踏まえ、ユーラシアンクラブは本格的に地域拠点型活動に参加することになりました。

アムダリア(オクサス)調査と密接につながる活動

ユーラシアンクラブの名誉会長である加藤九祚・国立民族学博物館名誉教授は、今年米寿を迎えるも青雲の志なお盛んで、アフガニスタンとウズベキスタンなど中央アジアの中央を流れるアムダリア(オクサス)川右岸の仏教遺跡カラテパで10年にわたる発掘調査と一人雑誌『アイハヌム』を毎年発刊し続けています。今後のユーラシアンクラブの地域拠点型活動は、加藤先生のアムダリア流域調査と密接に結びついています。

「日本人クラブ」から脱皮

私はユーラシアンクラブ創設以来，国家民族宗教を超えて，特に少数民族にウェートを置いて，民族の共生と自然との共生を模索する一ことを掲げて活動してきましたが，この数年掲げた「日本人クラブからの脱皮」は，アジアや世界の動向を視野に，これまでの活動の蓄積を踏まえ，グローバリズムに埋没させない多文化共生型活動を展開する上で必須との判断に基づくものです。

アジアを視野に地域から発信する文化運動

新生ユーラシアンクラブは，アジア・シルクロード諸民族の仲間を理事や役員として，ユーラシア人と日本人が協働して活動するクラブへの移行を意味しています。彼ら自身が地域拠点型活動に参加します。

今後のユーラシアンクラブの活動は，アジアを視野に地域から発信する文化運動として，アジアの友人たちが地域の皆さんと協力して進めることになります。ご興味のある各位のご参加を呼掛けます。

